

競技上の注意 団体戦・シングルス・ダブルス

R6 総体・新人

- 1 本大会は、現行の日本卓球ルールを準用して行います。
 - 2 ベスト4の学校・個人を表彰します。
 - 3 団体戦についての審判は両校から出る相互審判とします。
個人戦についての審判は、はじめは2試合目に出る選手が審判です。のち敗者審判となります。
 - 4 団体戦の初戦については、結果にかかわらず5番まで行ってください。
2試合目以降は3点先取法で行います。
 - 5 アドバイスについては、プレー領域内で行ってください。
ただし、監督の先生が役員を務めている学校の選手については、仕事を行う都合があるため、プレー領域を離れてのアドバイスを許可します。
 - 6 審判の人は、疑わしいサーブがあった場合は、一度は注意し、その後は審判長の先生に報告をしてください。
 - 7 アドバイザーの方は、IDを必ず身につけてアドバイスを行ってください。
事前に学校長の承認を受けていない方は、アドバイザーの資格がありません。
 - 8 プレー領域内での応援はすべての試合においてできません。

応援については、観客席からお願いします。なお、団体戦においては、登録メンバーのみベンチからの応援を許可します。

なお、応援については、相手をやじったり、失敗を喜んだりするようなことは避けてください。
また、ネットインやエッジボールについては、「すみません」と発するのがマナーです。
 - 9 台の位置は動かさないようにしてください。
 - 10 ラバーの貼替えについては、必ず役員の先生の許可を得てから、指定の場所で行ってください。
 - 11 ラケット検査を行うことがあります。審判長が抽出し、実施します。協力してください。
 - 12 ベスト16以上の選手においては順位決定戦があります。
順位決定戦終了後に抽選を行い、次大会のシード位置を決定します。
- 審判の生徒は、1ゲームごとの時間・アドバイスの時間・タイムアウトの時間をストップウォッチで計ってください。促進ルールはランニングタイム12分が経過した時点で、アドバイスとタイムアウトは1分が経過した時点で、コールをしてください。
 - タイムアウトは、選手または監督が要求できます。なお、両者の要求が異なる場合、団体戦においては監督の要求が優先され、個人戦では選手の要求が優先されます。時間は、1分間厳守でお願いします。
 - タオルの使用は、6ポイント毎・最終ゲームのチェンジエンドのときにしか認められていませんので注意してください。また、ラリーとラリーの間に必要以上に「間」をとらないようにお願いします。あまりにも長い場合は、審判が注意してください。
 - 団体戦のユニフォームは、登録メンバー10名が同じものを着用してください。また、相手と同じ場合はどちらかが替えなければなりませんので、2着以上用意するようにしてください。個人戦も場合も同様です。
 - ラケット、ラバーの確認を事前をお願いします。特に、打球面に傷のあるものや粒高ラバーの粒がとれているものは使用できません。また、ラバーの端の破損やはみ出しも約5mmを超える場合は使用できない場合があります。スペアのラケットやラバーもできるだけ準備してください。
 - ゲーム間のアドバイスやタイムアウトは1分厳守でお願いします。
 - アドバイザーのIDの受け渡しは監督の先生が行ってください。
 - アリーナには、教職員・アドバイザー(20歳以上の外部指導者)・試合中の選手の方以外は入らないでください。
 - 大会の運営をスムーズにするために、コールされた後は、速やかに試合を行ってください。
団体の全体あいさつ後に、**円陣を組むようなことは避けてください。**
 - 過度のガッツポーズ等は、挑発につながります。避けてください。
 - 水分補給にペットボトル飲料を飲む際、ペットボトルにはカバーをしてください。床に水滴をつけないための配慮です。
 - 中学生は会場の自販機を使用しないでください。十分な水分を持ってくるよう伝えてください。